

●あたらしい公共とは何か・・区と区民の協働は？

人々の支え合いと活気のある社会をつくるための様々な当事者の自発的な協働の場が「新しい公共」。人を支える役割を、『官』だけが担うのではなく、教育や子育て、街づくり、防犯や防災、医療や福祉などに地域でかかわっている一人ひとりにも参加してもらい、それを社会全体として応援しようというもの。企業や NPO をはじめ民間の様々な主体と行政が連携しての取り組み。官の下請けとしての民ではなく、区と区民および民間がどのように協働していくかが問われている。

新しい公共の先進事例として我孫子市の「提案型公共サービス民営化事業」がある。1000 以上の市のすべての事務事業について民営化・民間委託に関する提案を市民から募集する試みを始めている。荒川区では区と区民との協働が区政経営戦略プランに掲げられたが、区職員の意識改革が伴わず、区民をがっかりさせている。区の見解は？

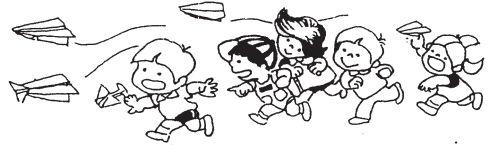
区：職員が一丸となって、地域との協働に取り組んでいる。人材育成に努める。

●温かい地域コーディネーター養成講座を

孤独を減らす温かい地域づくり 地域支えあい活動の活性化のために

地区ごとに、区職員、社協、介護職やふれあい館職員、町会、ボランティアをはじめ様々な在住在勤者に参加を呼びかけ、養成講座をおこない、出会いの場をつくれば、新しい活動が生まれ、ネットワークが強化され、地域で支えあいがより活発になる。ネットワークができれば、地区活動の拠点が必要となる。ふれあい館等も有効活用したらどうか。

区：人材育成のあり方やふれあい館の活用など検討したい。



●よりよい介護施設のために

・地域交流事業の促進を

介護施設に入ると地域社会との交流が少なくなり、生きる意欲をなくす高齢者もいる。人との触れ合いと絆が幸福をつくるという観点から交流事業を区として推進すべき。子どもたちの訪問はお年寄りが一番喜び、子どもにとってもよい教育になる。保育園・幼稚園・学校側がきちんと位置付けて取り組むべき。また、地域住民となつかしい歌を歌う「介護施設で歌声サロン」は、会話が生まれ、入所者にとって音楽療法の観点からも重症化予防に効果があり、参加する住民にとって生きがいと介護予防になる。区の推進体制を問う。

区：区としても重要と考えている。学校や幼稚園に働きかけることや介護事業者への支援を検討したい。

・障がい者の就労支援を

障がい者が介護職の資格をとっても雇用はむずかしい。清掃等の仕事もある。区が仲介できないか。

区：介護施設での研修等を含め、幅広く障がい者の雇用機会の拡大に向けて努力する。

・介護施設で看取りを

余計な延命治療はしてほしくないという高齢者の願いが話題になり、無駄な医療費削減と医者も問題提起をしている。区内介護施設で看取りを行うところがある一方、全くない施設もある。医療との連携の課題などを整理し、本人や家族の希望に沿う看取りが行えるよう、働きかけてはどうか。

区：介護施設と情報や意見交換を行う。

